



令和元年度 第1回 総合教育会議

会 議 録

八幡市教育委員会

開催日時	令和元年7月11日（木曜日） 午後3時30分～午後4時50分		
場所	八幡市役所 分庁舎2階 会議室A		
委員	市長 堀口 文昭 教育長 谷口 正弘 職務代理者 松下 順英	教育委員 橋本 陽生 教育委員 佐野 恵理子 教育委員 人見 妃都美	
事務局	教育部長 佐野 正樹 部付部長 辻 和彦 教育部次長 川中 尚	教育総務課長 山中 友順 教育総務課長補佐 小林 聡美 教育総務課 大崎 茂夫	

1. 開 会

- ・市長あいさつ

2. 議 題

- (1) 八幡市の健幸づくりと子どもたちの健康について

3. 閉 会



	内 容
[佐野部長]	<p>それでは、定刻となりましたので、只今より第1回総合教育会議を開会させていただきます。初めに、堀口市長からご挨拶を申し上げます。</p>
[市長]	<p>皆さん、ご苦勞様でございます。前回、開催させていただいてから4カ月が経ちました。本日も、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>総合教育会議は、首長と教育委員会が重点的に講ずべき施策等について協議調整を行う場でありまして、両者が教育政策の方向性を共有し、一致して教育行政を進めていくこととなっております。昨日の教育再生首長会議で、元文部科学省官僚の前川喜平(まえかわきへい・元・文部科学省官房総括審議官、官房長、初等中等教育局長、文部科学審議官[文教担当]、文部科学事務次官)氏が教科書採択については教育委員会の権限になっていますが、採択の方向性は議論できると総合教育会議についての質問時に答えられたと言われていました。今後は、教育政策の方向性を共有していきたいと思っております。</p> <p>昨年度は、教育大綱の改訂にともない、委員の皆様から貴重なご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。</p> <p>今後とも、この総合教育会議におきまして、教育現場の課題や問題点について忌憚のないご意見を頂戴してまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>この会議は、年2回の予定ですね。</p>
[教育長]	はい、そうです。昨年は、3回でしたね。
[市長]	<p>最低、年2回開催をしようと思っています。</p> <p>本日は、八幡の健幸づくりと子どもたちの健康について協議してまいりたいと考えております。</p> <p>八幡市としては、Smart Wellness City, Smart Welcoming City Yawata を目指し、健康都市づくりを進めております。事務局にお願いし、資料を作ってもらっていますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
[佐野部長]	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、これより議題に入りますので、会議の進行役は、市長にお願いいたします。市長、よろしくお願いいたします。</p>
[市長]	<p>ただ今より、令和元年度第1回総合教育会議を開催します。</p> <p>本日の議題、八幡市の健幸づくりと子どもたちの健康について、川中次長から説明していただきます。川中次長、よろしくお願いいたします。</p> <p>(1)八幡市の健幸づくりと子どもたちの健康について</p> <p>・八幡の子のからだの様子</p>
[川中次長]	<p>大人は、BMIといいますが子どもの場合は成長過程にありますので肥満度と表現します。学童期においては、20%以上が軽度肥満、30%以上が中等度肥満、50%以上が高度肥満となります。本市の肥満度20%以上の状況は、緩やかに下がっており少なくなっていると言えるのではないのでしょうか。逆に痩せ傾向、-20%以下の男子については若干増える傾向です。これについては、当市の養護部会でも話題になってきております。基本的な生活習慣や痩せていることが美しいという風潮で変化している事もありますし、元々男性の役割の狩猟的遺伝子が増えているのかもわかりません。痩せ傾向は、増えていますが2極化の傾向にあるとの報告は受けています。2ページのグラフで全国と当市の小学校を全国と比較すると大きな差は無くほぼ変わらないと言えると思います。最近では、高度肥満は減少しており軽度肥満が増加傾向にあります。中学校の場合も小学校と同じような傾向があります。女子の高度肥満が非常に少なく、全国や京都府と比較しても非常に低いです。無理なダイエットをしていなければいいと思いますが、食生活の問題の大きさを考えています。男子の場合は、全国と比較しても大差ないように思っています。全体的に肥満は、減少傾向にあると思います。また、校區別に見てみますと中央小学校、八幡小学校、有都小学校の学区は、肥満が多い状況になっています。くすのき小学校と南山小学校</p>



は、女兒の肥満が多くなっています。この2校の経年を調べてみますとくすのき小学校だけは継続して女兒の肥満率が高いです。南山小学校は、年度ごとに色々変化します。中学校は、男子の肥満率が高いです。女子は思春期でもあり気にする傾向が多く肥満率は低いと思います。

続きまして視力です。視力につきましては、視力が悪い者が若干微増傾向にあると思います。視力0.9以下の児童生徒が若干高くなる傾向にあります。京都府と比較すると府の増加率より若干抑えられているように思います。

虫歯の子ども達の率は、京都府同様に平成20年から平成30年の間にかなり減少しています。これについては、フッ素の取組も含めて親の意識が高くなっていると思います。歯の大切さの指導や治療の無料化も含めた成果が出ていると思います。小学校区別に見ると未処置者で美濃山小学校が少し高いです。親の意識が高く全く虫歯の無い子ども達と1人で数本の虫歯を持っている子ども達の2極化の傾向があります。中学校では、男山三中が低く、男山二中の未処置者が非常に高く気になるところであります。中学生になると歯医者に通院する時間が無いのかも分かりません。歯は、非常に大切なので学校からの指導方法の整備も併せて行っています。

次にアレルギー対応の問題です。食物アレルギー対応食の状況ですが、グラフのピンク色と赤色の部分は、完全に弁当を持参している子ども達です。草色と緑色の部分は、5品目以外の除去児童生徒でその他の対応となっています。5品目の除去食は、水色と青色の表示です。上記以外の重度アレルギー者の対応には、苦慮しているところです。

・八幡の子の運動の様子について

平成30年度の体力テストのグラフです。上部が男子で下部が女子で表しています。赤の線が全国です。全国を50とし京都府と八幡市を比較しています。八幡の子どもたちは、持久力があるように見られます。平成30年度小学校5年生では、握力は筋力、上体おこしは筋持久力、長座体前屈は柔軟性、反復横跳びは敏捷性、20メートルシャトルランは全身持久力、50m走は走力、立ち幅跳びは跳躍力、ソフトボール投げは遠投力をグラフで表しています。このグラフ値は平成20年度と大きくは変わっていません。伸びたのは50m走です。反復横跳びで測定している敏捷性が少し劣っています。総合点では、平成30年度の男子が48.1で平成20年度は、47.6です。女子は平成30年度が49.7で平成20年度が48.7と男女とも若干上がっております。続きまして中学校です。中学校の傾向も小学校とあまり変わらず持久力については、全国平均を上回っています。女子の反復横跳びの数値の低さが目につきます。平成20年度の女子反復横跳びは、49.6ありましたが44.3と低下しており気になっています。平成30年度男子の体力合計点は48.5で平成20年度男子の体力合計点も48.5と同じです。平成30年度女子の体力合計点は、46.3で平成20年度は、49.9でした。女子の数値の落ち込みが気になります。全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を引用しています。平成30年度小学校5年生において、運動やスポーツをすることが好きかどうかについては、全国、京都府より若干多くなっています。小学校においては、スポーツをすることが嫌いではないと思います。中学校2年生になると男子も女子も運動が好きな率が減少していますが女子の減少率が大きいです。それは、体力テストの数値にも表れていると思います。

中学校を卒業した後、自主的に運動、スポーツをする時間を持ちたいかどうか、生涯体育に繋がる部分ですが、これも男女とも全国、京都府より少ないです。運動、スポーツが好きか否かとリンクすると思います。この部分を子どもたちに如何にアプローチしていくか気になっています。

次に、学校での取組ですが、体力向上に向けて小学校では、マラソン週間・縄跳び週間等の全校的な取組や他の市町にはない八幡市独自の少年サッカー大会や縄跳びのスポーツフェスタが有る事で子どもたち自身がスポーツに親しむ機会が多いと思います。これらを目指して学校において子どもたちが自主的な練習等に繋がる取組が他市にはないと思って



います。

中学校では、教科での取組でスポーツテスト等の数値を全校掲示することによる意欲向上を図っています。基本的には部活動が大きなウェイトを占めてくると考えます。

健康教育では、歯磨き巡回指導を全小学校で実施しています。がん教育は、全中学校と小学校で行っているところもあります。薬物乱用防止教室、保健だよりを毎月養護教諭が作成し発行しています。小学校では、保健委員会において、歯磨き週間・月間等に合わせた取組を進めていただいています。基礎的な生活リズム週間が非常に大切なので早寝早起き朝ごはんではないですが、特に夏休み等の長期休業終了後は、生活リズムを1週間で立て直す仕組みを作って進めています。

報告は、以上です。

[市長]

ありがとうございました。事務局の川中次長の方から子どもたちの健康として、肥満度、視力、う歯等々の報告がございましたけれど質問等は、ございますか。

[松下委員]

一つだけ教えてください。毎年1回6年生を太陽が丘のグラウンドに集めて行う八幡市児童陸上競技交歓記録会は、八幡市独自の記録会ですか。

[川中次長]

これは、京都府の競技力向上対策本部がメインになっており、京都府内全ての市町村で実施されています。当初は、八幡市市民グラウンドで実施していましたが公認の陸上グラウンドを体験させてあげたく太陽が丘の陸上グラウンドを使用しています。

[橋本委員]

データの基礎の部分を確認したいのですが、各学校によってかなり差がでています。先ほども少し報告にありましたが、偶然当該年度だけなのか、経年で取ってもこのようにはっきりした差が出てしまうのか、データの信頼性の問題なので聞かせていただけますか。

[川中次長]

毎月養護教諭が作成しているデータを精査しましたが、経年で取っていても概ね変わっていないと思います。なぜ、校区別に差が出てくるのかですが、一つは生活習慣及び食事の内容の問題や偏食と家庭での子どもへの食に関する親の躾問題、食べ方の問題として、嚙まずに流し込んでいる傾向にあるのではないかと考えます。

[松下委員]

率から言えば10%以下の子供たちだと思いますが、朝ごはんを食べていない子どもが登校し教員がそれに気づいたときに仕方ないと見て見ぬふりをするのか、可愛そうなのでパン一つ渡しているのか等々その辺りの実態を掴んでおられるのならお聞きしたい。

もう一つの問題は、朝は食べない昼は給食を食べますが、夜は子ども食堂を利用しているのか、また利用できるのか等子どもの健康を考えるには、八幡市内に子ども食堂のデータとして持っても良いのではないのでしょうか。

[川中次長]

朝食を食べていない児童生徒が居るのは確かです。平成27年度のデータしかなかったのですが全体の90%の児童が朝食を食べていますが10%の児童は食べない又は食べない日が多い児童です。

[松下委員]

子ども食堂について、福祉部の方で何かデータをお持ちですか。

[辻部長]

八幡市内に3か所あります。詳細等把握していない部分もありますが二区公会堂へ5月に訪問してみたところ毎月1回第1金曜日に開いており30食程度出されていました。

見たところ、夕食に困っているというより午後6時半以降の知人同士の居場所に近いという感じでした。

[川中次長]

先ほどの追加として、学校の授業日は給食にて1食確保できますが長期休業中の問題については、八幡市としては、貧困対策も含めて子ども宅食（夏休み、冬休みに宅急便で食材を送っていただくNPO）の情報を就学援助世帯に提供させていただいています。今年は、150件程度ありました。

[市長]

他に何かありますか。

[橋本委員]

八幡の子の運動の様子について、持久力、走力が優れているのは、注目していたところなので非常に嬉しく感じています。「運動やスポーツが好きですか」の設問に対し嫌いの割合が男子より女子が増え「中学校卒業後自主的に運動やスポーツををする時間を持ちたいですか」の設問も女子の運動離れが表れています。持久力は、小学校、中学校とも伸ばし



	<p>ていますが中学校女子は嫌いな割合が増えるのは何故ですか。また、非認知能力の部分と持久力を習慣づけて頑張りきるといふねばりは、生きるためには、だいじな視点だと思います。このことが自主的に喜んでという非認知能力の部分と繋がりにくい部分が中学校女子に見られるところが課題ではないかと感想的ですが、見えてしまいますが如何ですか。</p>
[川 中 次 長]	<p>クラブ活動等については、全国と比較してもあまり差は無いですが、運動する生徒はとことんするが、しない生徒は全くしないという2極化が進んでいるのではないかと思います。もう1点は、体育の授業で学んだことを授業以外で行っているかの設問に対しやっていないと答える割合が女子の方が多くなっている傾向が見られます。</p>
[松 下 委 員]	<p>八幡市の中学校には、プールがありません。私の子どもたちが男山第三中学校に在学のところは、市民プールを1～2回利用して授業を行っていました。十数年前に高槻市のある中学校の校長と雑談をした覚えがあります。問題意識の高い校長でプールの維持管理運営には、大きな経費が必要なので市内の民間の水泳教室のプールを借りバスも借り通わせた方が経費的に安価だと話しておられました。当時としては、先取りしすぎだと思いましたが、現在では少しですが広がりを見せています。学校の水泳指導が盛んになったのは、1954年9月26日に青函航路で台風第15号により起こった、日本国有鉄道の青函連絡船洞爺丸が沈没した海難事故であり、死者・行方不明者あわせて1,155人に及ぶ、日本海難史上最大の惨事が発端となり文科省が水泳指導の重要性を認識したと思います。プールを有する学校の割合を調べてみると10年前の数値ですが、小学校は北海道と青森県を除けば90%以上学校がプールをもっています。プールを有する中学校は、北海道と青森県を含めた全国平均73%で大阪府は、91%、京都府は、58%です。中学校の学習指導要領の解説に学校及び近隣に適切な水泳場の確保が困難な時は、水泳指導を行わないことができるという一項目が記載されており八幡市は、これを採用しているのかなと思っていましたが、今となっては問題点として子どもたちが成長し河川や海で将来的に遭遇する可能性がある水難事故等々を含め今でも教育課題としてあると思っています。八幡市も小学校も含めて指導力や指導時期を含めて民間委託の方向に向けて行政的にも考えても良いのではないかと思います。</p>
[橋 本 委 員]	<p>今の理由付けとして、費用対効果を精査し何方がいいのか判断してもらったらいと思いますし働き方改革も背景として民間委託の方向が良いのではないかと思います。学校の安全危機管理や子どもたちの水泳をする楽しさの点も含めて考え直す時期なのかと思います。</p>
[教 育 長]	<p>費用対効果を図るために10年間のプールの維持費は算出しておりますので、参考にしてもらえれば良いと思います。</p>
[市 長]	<p>今、中学校はどうしていますか。</p>
[教 育 長]	<p>中学校は、水泳はやっておりません。最近、泳法を覚える事以外に紫外線の問題や昨年は、熱中症の問題でプールの水温が上がりがすぎて中止になることが全国的に広がっていました。</p>
[市 長]	<p>室内なら大丈夫ですね。トータル的に考えると民間施設を活用すれば経費的にも安価で確実かも分かりませんね。</p> <p>もう一つは、静岡県静岡市にある清水エスパルスのようなサッカーチームがあれば幼児から壮年者までサッカーに親しむ活動にて自然に運動につながると思います。また、近隣では京田辺市のハンドボールのように特化しているスポーツがあれば市民に伝わり運動につながると思います。</p>
[川 中 次 長]	<p>う歯患率の面からいうとフッ化物洗口は効いているのですか。</p> <p>多少は効いていると思います。養護教員に聞いても効いているという話を聞いています。一般で販売しているフッ化物入歯磨きや歯科医でも使用しているので親の意識の高まりによって広がっていると思います。</p>
[市 長]	<p>傾向と対策面から言えば生活習慣の部分もあるので、それについては仕方がないという</p>



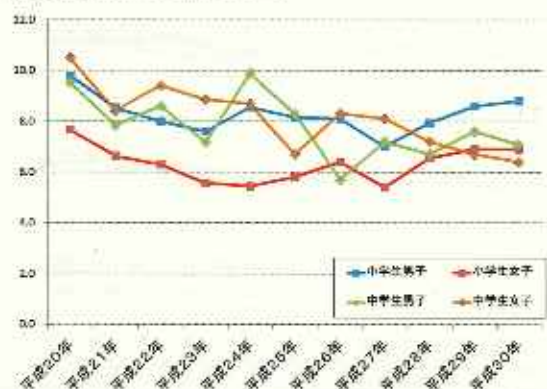
<p>[川 中 次 長]</p> <p>[市 長]</p> <p>[教 育 長]</p> <p>[松 下 委 員]</p> <p>[市 長]</p>	<p>事なのですか。</p> <p>健康教育については、学校において色々な取組をしていますが、全体的に見れば学校における取組がある程度の数値に見えていると考えます。大変気になるのが2極化の無関心層です。その無関心層にどのような手段を用いるかが学校現場においても課題だとも思います。</p> <p>最近、他との比較を気にする人が増えているので無関心層が以前より多少なりとも少なくなっていると思います</p> <p>対策という点では、このような体力や健康の問題については、実態を踏まえてどのような対策を取ろうとしているのか学校は実施しているかわからないですがこちらはあまり把握出来ていないことがあります。学力向上については、当初ヒアリング、中間ヒアリング、期末ヒアリングを実施し方向性や実施方法などを確認しますが、このような問題については、保護者のヒアリングを含めて、どのような対策をとるのかはあまり把握していません。今後は、このような体力健康面についてもヒアリングが必要だと思います。</p> <p>現行では、各学校が作成する保健だより精査が一つの窓口になり情報収集になると思います。</p> <p>ありがとうございました。以上をもちまして第1回総合教育会議を終了させていただきます。本日はご苦勞様でございました。</p>
--	--

本市の子どもたちの健康

令和元年度 第1回
八幡市総合教育会議

八幡の子のからだの様子

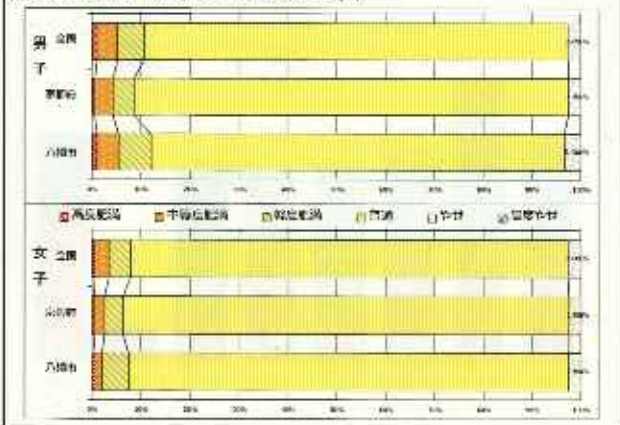
肥満度+20%以上



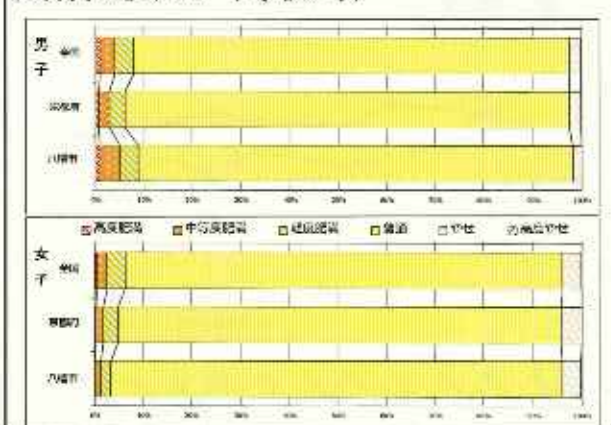
痩せ傾向-20%以下



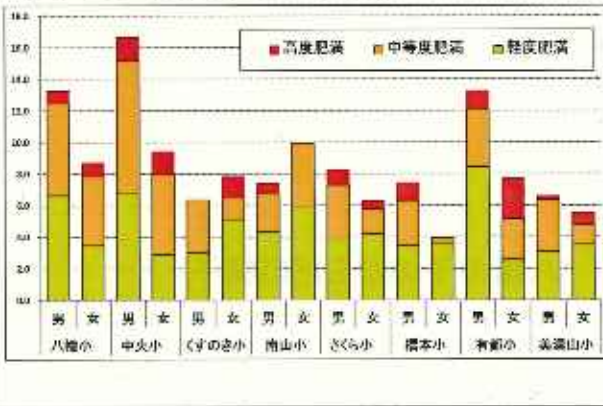
肥満度比較(H30 小学校5年)



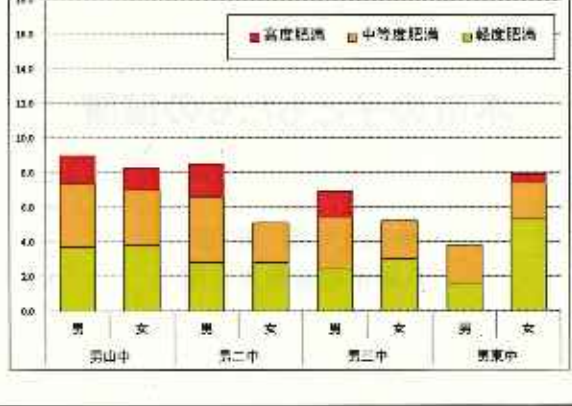
肥満度比較(H30 中学校2年)



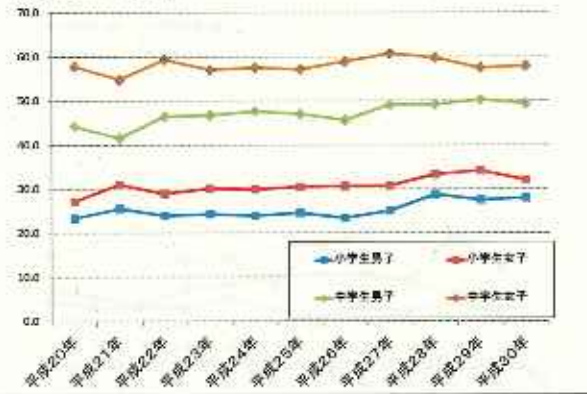
校区別 肥満度(小学校)



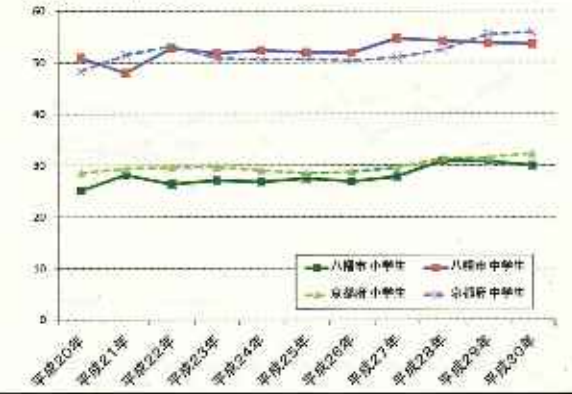
校区別 肥満度(中学校)



視力0.9以下



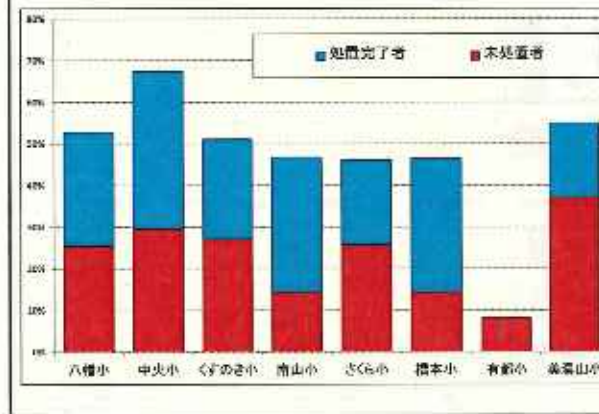
視力0.9以下



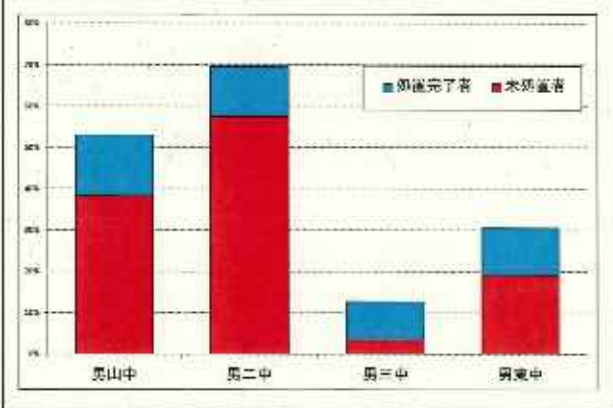
う歯り患状況



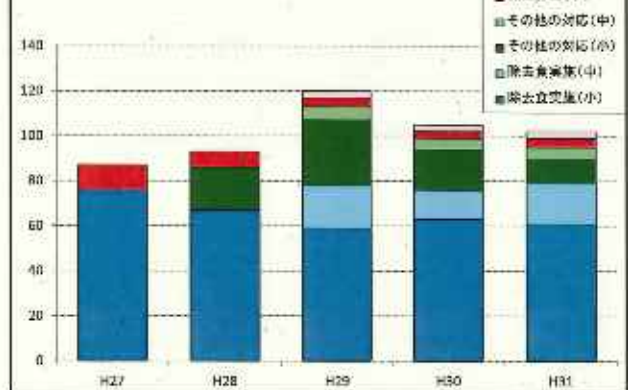
校区別 う歯り患率(小学校)



校区別 う歯り患率(中学校)

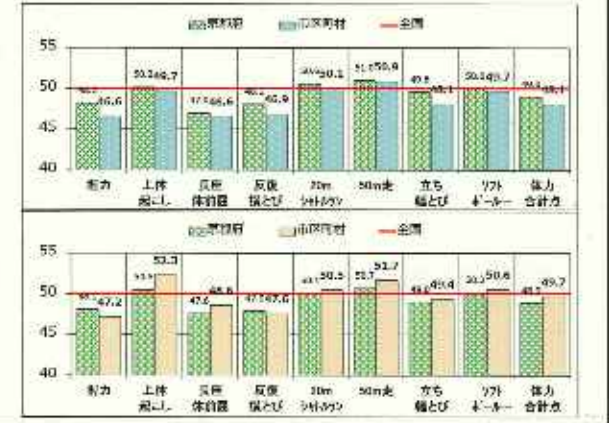


食物アレルギー対応食の状況

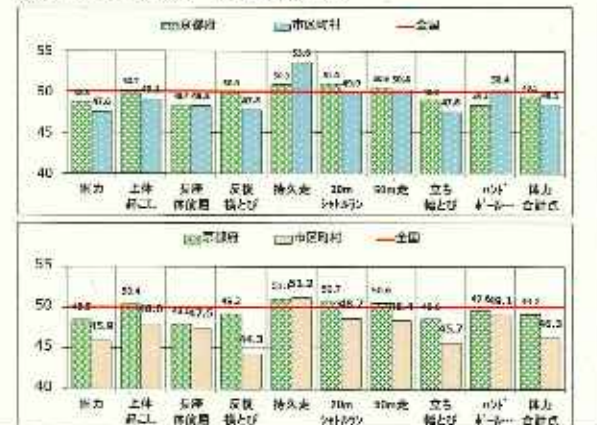


八幡の子の運動の様子

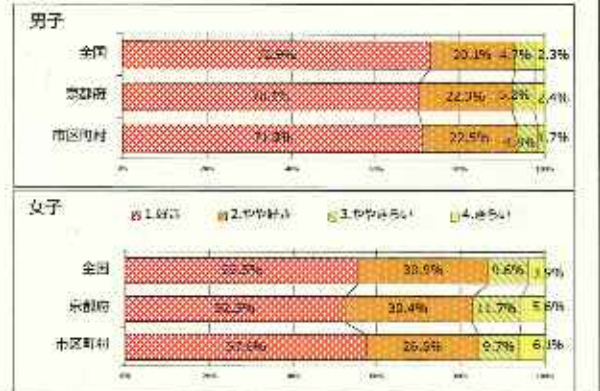
体力テスト(H30 小学校5年)



体力テスト(H30 中学校2年)



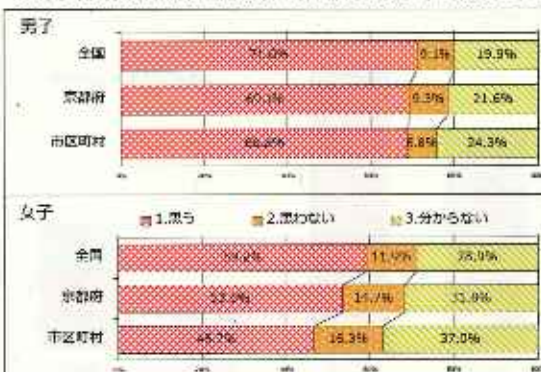
運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。(H30 小学校5年生)



運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。(H30 中学校 2年生)



中学校を卒業した後、自主的に運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。(H30 中学校 2年生)



学校での取組

体力向上

- 小学校
 - ・マラソン週間・縄跳び週間等の全校的な取組
 - ・少年サッカー大会やスポーツフェスタ等の取組
- 中学校
 - ・教科での取組で全校掲示による意欲向上
 - ・部活動

健康教育

- ・歯磨き巡回指導
- ・がん教育
- ・薬物乱用防止教室
- ・保健だよりの発行
- ・保健委員会の取組(小学校)
- ・生活リズム週間(小学校)